保育内容（表現）身体表現指導における模擬保育後のふりかえりに関する一考察

A study of Debriefing After the Childcare’s Simulation in the Expressive Body Movements Instruction.

高　原　和　子・瀧　　　信　子*・矢　野　咲　子*
Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Sakiko Yano

キーワード：身体表現指導，幼児，模擬保育，ふりかえり

はじめに

筆者らは，これまでに保育者養成校における学生の身体表現の指導技術の向上のために，模擬保育を取り入れた段階的指導法について検討してきた[1～12]。その中で，模擬保育の重要性を確認してきており，特に模擬保育後に行う「ふりかえり」がその後の学生の指導技術の向上に有効であることを示唆している。そこで，先行研究では，この「ふりかえり」に着目し，模擬保育後の「ふりかえり」がその後の幼児を対象とした指導にどのように活かされたのか，事例をもとに検討した。その結果，模擬保育後のふりかえりは，学生自身が指導における重要課題に気づくきっかけをつくり，その後の幼児指導につながる手がかりとなることが確認された[13, 14]。また，「ふりかえり」においては，個人のふりかえりだけでなく，グループまたは全体でふりかえりを討議し，他者との情報を共有することによって，個人の次回以降の気づきにもつながることが示唆された。そして，この気づきの深まりが回を重ねるごとに討議をより活発化し，そのことによって次への指導にも生かされることとなり，「子どものイメージを大切にした指導」の重要性を見いだすことにつながっていった[15]。

「子どものイメージを大切にした指導」を筆者らは幼児の身体表現指導における意義の一つと考えている[16]。

そこで，本研究では，身体表現指導法の学修の深化の過程を明らかにすることを目的に，身体表現指導における学修の一手段である模擬保育について模擬保育後のふりかえりがその後の学修にどのような変化をもたらすのか,学生のふりかえりコメントから検討した。また，幼児の身体表現指導の意義である「子どものイメージを大切にした指導」が模擬保育後の「ふりかえり」によってどのようにもたらされるか検証した。

方　法

1．研究対象および模擬保育の実践

対象はＦ大学学生17名である。対象となった学生は,その大半の者が保育所や幼稚園といった保育現場で定期的に保育補助のボランティアを行っており，幼児との関わりを経験していた。学生は４グループに分かれ,それぞれのグループで「幼児の身体表現遊び」の指導計画案を作成した。その後，それぞれのグループのメンバーが指導者となりグループ以外の学生を幼児に見立てた模擬保育を行った。それぞれの模擬保育の時間は30分である。

2．指導計画案のタイトルと模擬保育実施日

４グループの模擬保育のタイトルと実施日を表１に示す。

＊福岡こども短期大学

表１　模擬保育のタイトルと実施日

模擬保育のタイトル（指導の対象年齢）	実施日
1回目 「いもになって遊ぼう」（4歳児）	2014年 7月 4日
2回目 「ねことねずみ」（5歳児）	2014年 7月 11日
3回目 「くり探しに行こう」（4歳児）	2014年 7月 19日
4回目 「どんぐりの大冒険」（5歳児）	2014年 7月 26日

３．ふりかえりの方法と所要時間

模擬保育後のふりかえりは次の順に進めていった。

（１）個人のふりかえり「項目選択式ふりかえりシート」（10分）

模擬保育の実践直後に指導者役，幼児役それぞれが「項目選択式ふりかえりシート」（図１）を用いて個別に活動をふりかえる。「項目選択式ふりかえりシート」では，①活動のねらい，②幼児の活動，③指導者の言葉かけ，④活動の流れと活動内容，⑤配慮や援助の５項目，29設問について４段階で評価し，幼児役および指導者役に対するコメントを自由記述式で記入する。この「項目選択式ふりかえりシート」の目的は，直前に行った模擬保育を整理し，幼児の身体表現指導として何が必要かを洗い出すことにある。

（２）グループ内討議（10分）

その後，指導グループのメンバーとグループ内討議を行った。

（３）グループ討議内容の発表，質疑応答（10分〜）

グループで討議した内容を代表者がまとめて発表する。

（４）全体討議と講評（10分〜）

グループ討議の発表に引き続いて，他グループからの質問等への応答や，発表からみえてきた課題について全体で討議する。また，全体討議を行いながら教員による講評を行う。

（５）個人のふりかえり「自由記述式ふりかえりシート」（10分）

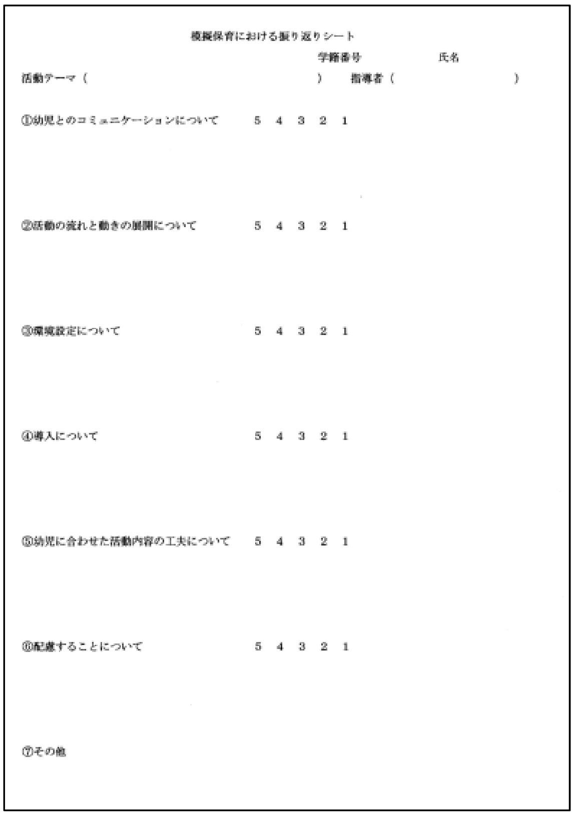
全体討議と講評の後、それぞれが「自由記述式ふりかえりシート」（図２）を用いて個別にふりかえる。「自由記述式ふりかえりシート」では，①幼児とのコミュニケーション，②活動の流れと動きの展開，③環境設定の工夫，④導入について，⑤活動内容の工夫，⑥配慮することについて，⑦その他の７項目について自由記述

身体表現指導実践を振り返って

学籍番号		氏名		活動日	月　日
活動テーマ					
ねらい					

１．ねらいについて　《 いいえ【1 2 3 4】はい 》
① ねらいは達成できましたか　【 1 2 3 4 】
２．幼児の活動について
② 設定年齢の幼児になりきることができましたか　【 1 2 3 4 】
③ 指導者の問いかけに対して積極的に応えましたか　【 1 2 3 4 】
④ イメージを動きにすることができましたか　【 1 2 3 4 】
⑤ 積極的に活動に参加しましたか　【 1 2 3 4 】
⑥ 活動を楽しむことができましたか　【 1 2 3 4 】
幼児役の学生に対して
３．指導者の言葉かけについて
⑦ 声の大きさは適切でしたか　【 1 2 3 4 】
⑧ 話す速さは良かったですか　【 1 2 3 4 】
⑨ 幼児に解りやすい言葉かけでしたか　【 1 2 3 4 】
⑩ 幼児との応答でイメージを深めることができましたか　【 1 2 3 4 】
⑪ 動きを引き出す言葉かけができましたか　【 1 2 3 4 】
⑫ 動きの少ない幼児に声かけをしましたか　【 1 2 3 4 】
⑬ 動いている時に擬音語・擬態語・擬声語（オノマトペ）を積極的に用いていましたか　【 1 2 3 4 】
⑭ 間の取り方は適切でしたか　【 1 2 3 4 】
⑮ 声の調子を工夫し、雰囲気作りをしましたか　【 1 2 3 4 】
４．活動の流れと活動内容について
⑯ 導入の工夫がありましたか　【 1 2 3 4 】
⑰ 時間配分（導入・展開・まとめ）は適切でしたか　【 1 2 3 4 】
⑱ 流れはスムーズでしたか　【 1 2 3 4 】
⑲ 活動内容はねらいに適していましたか　【 1 2 3 4 】
⑳ 活動量は十分ありましたか　【 1 2 3 4 】
㉑ フロアーの使い方は工夫されていましたか　【 1 2 3 4 】
㉒ イメージを持った動きが提示できましたか　【 1 2 3 4 】
㉓ その場の雰囲気作り（音楽・物的環境）は有効でしたか　【 1 2 3 4 】
５．配慮や援助について
㉔ 指導者の立つ位置は適切でしたか　【 1 2 3 4 】
㉕ 豊かな表情で指導できましたか　【 1 2 3 4 】
㉖ 安全面についての配慮は適切でしたか　【 1 2 3 4 】
㉗ 幼児全体に目を配ることができましたか　【 1 2 3 4 】
㉘ 幼児の反応に対して臨機応変に対応できましたか　【 1 2 3 4 】
㉙ 指導者自身も指導を楽しむことができましたか　【 1 2 3 4 】
指導に対して
㉚ この指導を総合的に評価すると何点ですか　0点　100点
６．動いた種類に○を付けましょう
歩く　走る　ねる　はう　転がる　跳ぶ　回る　すべる　伸びる　縮む　踏む　座る　追いかける　逃げる　ギャロップする
スキップする　倒れる　もたれかかる　おぶう(おんぶする)　かくれる　くぐる　入る　出る　もちあげる　支える　押す
引っぱる　渡る　たたく　投げる　ぶつける　受け止める　蹴る　渡す　積み上げる　回す　振る　転がす　ポーズをとる

図１　項目選択式ふりかえりシート



模擬保育における振り返りシート
学籍番号　　氏名
活動テーマ（　　）　指導者（　　）
①幼児とのコミュニケーションについて　5 4 3 2 1
②活動の流れと動きの展開について　5 4 3 2 1
③環境設定について　5 4 3 2 1
④導入について　5 4 3 2 1
⑤幼児に合わせた活動内容の工夫について　5 4 3 2 1
⑥配慮することについて　5 4 3 2 1
⑦その他

図２　自由記述式ふりかえりシート

式でコメントを記入する。この「自由記述式ふりかえりシート」の目的は，グループ討議および全体討議を経て，気づきの深まりができたところで改めてふりかえることで新たな発見を導き出し，身体表現を指導する上での大切なことの気づきを整理することである。

これら全ての様子（模擬保育からふりかえりまで）はVTR撮影し，本研究分析の資料とした。

結　果

模擬保育1回目から4回目までのそれぞれの模擬保育直後に行った項目選択式ふりかえりシートから得られた主な内容を「個人の気づき」に，全体討議後の自由記述式ふりかえりシートに記入された主な内容を「全体討議後の気づき」に，全体をふりかえって記入する自由記述式の主な感想を「全体をとおした感想」として表2と表3に示す。

表2　模擬保育1回目と2回目の「個人の気づき」「全体討議後の気づき」「全体をとおした感想」

	1回目 「いもになって遊ぼう」	2回目 「ねことねずみ」
個人の気づき	● 幼児役 ・発言は子どもになりきっていたが，動きがともなっていない。 ・幼児役と指導者役にイメージのズレがみられた。 ・幼児にしては大人なすぎるところがあった。 ・指導者の声かけに対してどのように応えていいかわからなかった。 ● 指導者役 ・提示しすぎていて，幼児の自発的な活動が出にくくなっていた。 ・子どもの想像がもっと膨らむような声かけが必要に感じた。	● 幼児役 ・積極的に活動に取り組めていた。 ・指導者の問いかけに反応していた。 ・なりきって身体を動かすことが主であったため，イメージよりは身体を動かして楽しんでいた。 ● 指導者役 ・ルールのある活動で，その説明が難しかったので，視覚的にわかりやすい工夫があると良かった。 ・もっと表現活動を行う時間を増やすべきだった。 ・まとめのときに，もう少し子どもの発語を取り上げ，子ども自身に表現する場をつくるべきだった。 ・なりきるための言葉かけ（オノマトペなど）が必要。
全体討議後の気づき	● 幼児とのコミュニケーション ・臨機応変に対応していたが，全体の様子が見れていなかった。 ● 活動の流れと動きの展開 ・流れはスムーズだったが，一つ一つの活動が淡白であった。 ・活動と活動のつながりに工夫が必要。 ● 環境設定 ・動く場所，動線をもっと考えるべき。 ・使った道具を他でも活用できたらよかった。 ● 導入について ・言葉だけでなく，具体物がほしかった。 ・幼児役がうまくイメージしきれていなかった。 ● 活動内容の工夫 ・指導案にとらわれず，その場の子どもの言葉から活動や見立て遊びを取り入れても良かったのでは。 ・幼児自身の動きができる場面があるとよかった。 ● 配慮することについて ・安全面への配慮が必要。 ・全体に目が配られていなかった。	● 幼児とのコミュニケーション ・幼児の発言をよく拾って応答していた。 ・子ども同士のコミュニケーションが少なかった。 ● 活動の流れと動きの展開 ・流れがあって，展開もスムーズだった。 ・表現活動を要所要所で入れられれば良かった。 ・もう少しストーリー性があればよかった。 ● 環境設定 ・空間を上手く工夫すると良かった。 ・幼児のイメージが広がるような環境づくりが必要。 ● 導入について ・興味を引く導入だったが，もう少しゆっくり行うと良かった。 ・なりきる時間がほしかった。 ● 活動内容の工夫 ・せっかく導入でなりきったので，なりきったまま活動をするべきだった。 ・活動が長すぎるところがあった。 ● 配慮することについて ・安全面への配慮が必要。
全体をとおした感想	・指導案をつくるとき，机上だけではなく，実際に動きながらつくっていくと細かな動きや体勢をイメージしてスムーズに動けたのではないかと思った。 ・事前にシミュレーションしておくことが大切だ。 ・子どもの姿をイメージできてなくて，実際にやってみて気づかされるところが多かった。 ・指導者は一人ひとりの様子をしっかり見ることが大切。	・子どもの主体性をもう少し考えると良かった。 ・人の指導を体験することで，自分の指導を客観的に理解することができた。 ・模擬保育を実際に行ってみて，言葉一つ一つの使い方の大切さがわかった。 ・グループ討議をとおして，自分では気づかなかった点にも気づくことができた。

表3　模擬保育3回目と4回目の「個人の気づき」「全体討議後の気づき」「全体をとおした感想

	3回目 「くり探しに行こう」	4回目 「どんぐりの大冒険」
個人の気づき	● 幼児役 ・それぞれが登場人物になって遊ぶことができていた。 ・保育者の発言に反応できていた。 ・前より子どもの姿が子どもらしくなっていた。 ・幼児らしい発言も多く出ていた。 ● 指導者役 ・幼児では理解できない言葉があった。もう少しかみ砕いた表現にするとよかった。 ・子どもたちに合わせた環境構成や教材の使い方が意欲を高める要因だと思った。 ・指導者役がなりきれていた。 ・うまくイメージを膨らませる声かけができていた。	● 幼児役 ・指導者とのやりとりもよく，幼児になりきれていた。 ・自分のイメージで表現できた。 ・子どもらしく動けていた。 ・指導者を困らせるような発言も飛び出して，リアルだった。 ・幼児になりきれてとても楽しかった。 ● 指導者役 ・とてもわかりやすく，楽しく活動ができるようにもっていってくれた。 ・一人ひとりの特徴を捉えた声かけがあった。 ・声の大きさも良く，なりきれていた。
全体討議後の気づき	● 幼児とのコミュニケーション ・見せ合いをしたり，子ども同士の関わりがあるとよかった。 ・一人ひとりの工夫や感想を受け止める時間が必要。 ● 活動の流れと動きの展開 ・流れが少し単調だった。遅い・速いを上手く組み合わせてメリハリをつけるとよかった。 ● 環境設定 ・準備物がしっかりできていた。 ・子どもの動きを考え，気づけば環境設定が変わっているという設定はよかった。 ● 導入について ・工夫があり，活動開始がスムーズだった。 ・ストーリー性があり，活動意欲が高まった。 ● 活動内容の工夫 ・内容が面白かった。 ・魔法は子どもにとってなりきりやすくわくわくする。 ・最後は人間に戻りたかった。 ● 配慮することについて ・安全面への配慮が必要。 ・後ろの人への配慮が少なかった。	● 幼児とのコミュニケーション ・幼児との対話ができていた。 ・子どもの言葉を拾い，相互的な保育ができていた。 ● 活動の流れと動きの展開 ・流れはスムーズだったが，強引なところもあった。 ・変身があるのは良いが，多くて複雑だった。 ・活動場面が転換しすぎて，イメージを膨らませる時間がなかった。 ● 環境設定 ・場所を大きく使っていた。 ・教材などが丁寧に用意されていた。 ● 導入について ・イメージしやすい工夫があった。 ・やる気を起こさせる工夫があった。 ● 活動内容の工夫 ・年齢にあった活動内容だった。 ・表現は十分にあったが，あまり深まらなかったので，深められるような内容にすると良い。 ● 配慮することについて ・安全面への配慮が必要。 ・保育者の立ち位置や人数を工夫するべきだった。
全体をとおした感想	・イメージを膨らませてそれを共有して，みんなで世界観を創り上げていくにはコミュニケーションが大切だ。 ・表現には発信する側とそれを受け止める側が必要だ。 ・毎回のふりかえりで客観的に考えることができ，模擬保育の良さを感じた。 ・幼児目線で「こうしたい」と思うことが多くなった。 ・討議では疑問をぶつけるだけでなく，自分ならどうするか，考えることも大切であると感じた。 ・全体討議で他からの指摘がとても勉強になる。	・その都度のふりかえりが毎回の指導に生かされている。 ・各グループの工夫が集結されたような感じを受けた。一方で，保育の難しさも感じた。 ・まずは保育者がなりきることで，子どもの世界観を広げられるのではないかと思った。 ・一人ひとりの子どもを認めていくことが大切だ。 ・討議をすることで自分の意見を言うことに自信が持てるようになってきた。 ・模擬保育を重ねることで，見目が養えた気がする。 ・実習が待ち遠しい。

考　察

項目選択式シートを使った個人のふりかえりでは，4段階評価においては，1回目から4回目と大きな変化はなかった。しかし，幼児役についてのコメントでは，初回は幼児の実態を掴むことに難しさを感じる学生が多く，幼児になりきれていない者がほとんどであったが，回を重ねるごとに幼児らしい発言や行動を出すことができるようになっていった。模擬保育において指導者側の指導力を向上させるためには幼児役の存在が鍵となる。毎回の全体討議の中でもたびたび課題として上がっており，そのことを討議することで学生たちに模擬保育における幼児と指導者との関係ややりとりの重要性を意識させていった。

また，幼児との問いかけ・応答・受容といった援助は幼児の身体表現遊びを指導する上では重要となる。これら援助は幼児役が幼児らしく振る舞うことで生まれる。模擬保育を繰り返し行い，そのたびに丁寧にふりかえりを行ったことで，学生たちがこれらの重要性を意識することができ，指導の質の向上につながったと考えられた。最終回の幼児役のコメントには，「幼

児とのやりとりを意識した問いかけを指導者がしてくれたので，幼児になりきって応えることができた。」とあり，幼児になって活動を楽しめた様子も覗えた。

グループ討議は，回を重ねるごとに活発に意見交換が行われるようになっていった。それは個人では気づかないことにもグループや全体で討議し意見交換することで，他者との情報共有ができ，そのことが新たな気づきを生むこととなり，指導者としての気づきが促されていった結果と考えられた。

これら一連の模擬保育とふりかえりを繰り返すことで，最終回の模擬保育においては，指導の難しさを感じつつも，「表現の仕方は様々で，いろいろな表現がでてくるところが身体表現では大切であると感じた。」「子ども一人ひとりの発言や表現を拾っていき，子どもが表現したいと感じる雰囲気を創ることが重要だと思った。」「子どもがもっと心から楽しく表現したいと感じられる工夫を考えていきたい。」といったコメントが寄せられた。このことから模擬保育とそれに続く討議を入れたふりかえりは，幼児の身体表現を指導する際の重要な視点を洗い出し，「イメージを大切にした指導」という意識を学生たちに根付かせていったものと考えられた。

まとめ

本研究では，身体表現指導法の学修の深化の過程を明らかにすることを目的に，模擬保育後のふりかえりがその後の学修にどのような変化をもたらすのか検討するとともに，幼児の身体表現指導の意義である「子どものイメージを大切にした指導」が模擬保育後の「ふりかえり」によってどのようにもたらされるか検証した。その結果，以下のことが確認された。

①項目選択式シートを使った個人のふりかえり１回目から４回目まで大きな変化はなかった。しかし，幼児役についてのコメントからは，回を重ねるごとに幼児らしい発言や行動を出すことができるようになっていく様子がうかがえた。この件は，毎回の討議の中でもたびたび課題となっており，そのことで模擬保育における幼児と指導者とのやりとりや関係の重要性を意識させ，模擬保育の質の向上につながったと考えられた。

②グループ討議では，回を重ねるごとに活発に意見交換が行われ，個人では気づかないことにも他者との情報共有によって新たな気づきが生まれ，指導者としての気づきが促されていった。

③一連の模擬保育とふりかえりを繰り返すことで，最終回の模擬保育においては，指導の難しさを感じつつも，徐々に幼児の身体表現指導の真髄に迫っていく意見や指導がみられるようになり，「子どものイメージを大切にした指導」の重要性をコメントすることが多くなっていった。このことから模擬保育とそれに続く討議を入れたふりかえりは，幼児の身体表現を指導する際の重要な視点を洗い出し，「イメージを大切にした指導」という意識を学生たちに根付かせていったものと考えられた。

以上のことから模擬保育後の「ふりかえり」が学生の気づきを促すきっかけになることが示唆され，「ふりかえり」では，個人のふりかえりだけでなく，他者との情報の共有が自己だけでは気づかない点にも目を向けることができるとともに，他者からの見方を知ることでより深いものになることが，本研究でも確認された。そして，そのことが次の指導力の向上につながっていくものと考えられた。

参考・引用文献

１）瀧信子，青山優子，下釜綾子：幼児の身体表現活動を引き出すための有効なプログラム（指導案）の検討について．日本保育学会第57回大会発表論文集，690-691，2004.
２）下釜綾子，青山優子，宮嶋郁恵，青木理子，井上勝子，小川鮎子，小松恵理子，重松三和子，瀧信子：幼児の豊かな身体表現を引き出す手だて．九州体育・スポーツ学会第54回大会号．47，2005.
３）瀧信子，青山優子，下釜綾子：幼児の身体表現を支える指導技術・技能について．日本保育学会第58回大会発表論文集，816-817，2005.
４）瀧信子，矢野咲子，瀧豊樹：学生の指導力をたかめるための模擬保育の有効性と課題－身体表現活動の展開を通して－．第一保育短期大学研究紀要，18，1-18，2007.
５）矢野咲子，瀧信子，小川鮎子，下釜綾子，高原和子：保育者養成校における身体表現の段階的指導法－冬を題材にした活動－．九州体育・スポーツ学研究．23（１），95，2008.
６）矢野咲子，瀧信子，高原和子，瀧豊樹：身体表現活動における学生の指導力を高めるための指導方法．福岡こども短期大学研究紀要，20，9-16，2009.
７）高原和子，下釜綾子，瀧信子，矢野咲子：保育者養成校における身体表現の効果的な指導法．日本保育学会第62回大会発表論文集，148，2009.

8）瀧信子，矢野咲子，瀧豊樹：身体表現の授業における模擬保育の有効性と課題．福岡こども短期大学研究紀要，21，33-43，2010.
9）矢野咲子，瀧信子：学生の実践力を高める身体表現指導法の取り組み．福岡こども短期大学研究紀要，23，1-9，2012.
10）瀧信子，矢野咲子，瀧豊樹：保育者養成における「身体表現指導法」の取り組み．福岡こども短期大学研究紀要，24，1-7，2013.
11）矢野咲子，小川鮎子，下釜綾子，高原和子，瀧 信子：身体表現における学生の育ちと課題－指導実践の振り返り（1）―．日本保育学会第66回大会発表要旨集，750，2013.
12）下釜綾子，小川鮎子，高原和子，瀧信子，矢野 咲子：身体表現における学生の育ちと課題―指導実践の振り返り（2）―．日本保育学会第66回大会発表要旨集，751，2013.
13）高原和子，小川鮎子，下釜綾子，瀧信子，矢野咲子：身体表現活動における活動後の「ふりかえり」の有効性．日本保育学会第66回大会発表要旨集，752，2013.
14）高原和子，小川鮎子，瀧信子，矢野咲子，下釜綾子：幼児の身体表現指導における指導実践後のふりかえりの有効性．福岡女学院大学紀要人間関係学部，15：89-95，2014.
15）高原和子，小川鮎子，釜綾子，瀧信子，矢野咲子：身体表現の模擬保育を考える－実践後のふりかえりの工夫と課題－．日本保育学会第67回大会発表要旨集，870，2014.
16）瀧信子，青山優子，下釜綾子：幼児の豊かな身体表現を引き出す手だて．第一保育短期大学研究紀要，17．31-43，2006.

付記

本論文は，「身体表現の模擬保育を考える－指導技術の向上をめざして－」として第68回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。